

「わたしだ。恐れることはない」

マルコによる福音書 6章42～56節

聖学院大学 政治経済学科教授 加藤 恵司

先日、アンブロークンという映画を見ました。この映画は、ルイス・ザンペリーニ(Louis Zamperini、1917～2014年)という1936年のベルリンオリンピックの5000mのアメリカの代表選手の実話です。彼はこのベルリンで最後の1周で何人もの選手を抜いて8位に入賞し、1940年に行われるはずであった東京オリンピックに期待されていました。彼は、第二次世界大戦が始まると米軍パイロットとして召集されました。彼を乗せた戦闘機は海に墜落してしまい、47日間、ゴムボートで太平洋を漂流し、日本軍に発見され捕虜として拘束されてしまいました。

大森にあった捕虜収容所で、陸軍将校の渡辺という人から執拗な拷問を受けましたが、ルイスは耐え続けました。ある日、「オリンピック選手ザンペリーニは戦死した」とアメリカでは報道されましたが、日本で生きているというあかしのため、ラジオで肉声をもって生きている訴えをします。その後、アメリカの悪口と日本軍を誇る原稿を読むように説得されますが、そんな偽りの要請を拒みました。再び、収容所に戻され、彼に対する拷問はひどくなります。1944年の末、大森の収容所に爆弾が落とされて火事になりましたが、捕虜たちの消火活動によって鎮火しました。しかし、ザンペリーニは焼けた大森の収容所にいられなくなり、新潟の直江津で石炭を運搬する仕事場に送られ、飢えと重労働によって、肉体の限界にまで追い込まれますが、そこで日本の敗戦を迎えました。それが、映画の概略ですが、映画の最後に「その後、彼は、生涯を神に捧げた」という言葉で終わっています。

ここから、「神にささげた」という言葉に従って、その後のザンペリーニについて調べました。アメリカに戻ったザンペリーニは、「日本兵に復讐するため、金をためて日本に行く」と憎しみに燃える一方、47日間の漂流、収容所で受けた悪夢がフラッシュバックして、うなされます。生活を一新しようとして結婚します。しかし、フラッシュバックは収まらず、酒浸りの日々になりました。妻から離婚を突きつけられ、ますます追い詰められます。奥さんの勧めで教会に行きました。そこで、「敵を愛せ」という主の御言葉が彼の心を変えました。

「人を許すという」ことが自分のトラウマを乗り越える手だてだということがわかって、日本に来日し、自分を痛みつけた鬼軍曹を探しますが、彼はA級戦犯として指名手配されていることが分かりました。しかし、彼は行方不明で見つけ出すことが出来ません。その間、彼は他の戦犯との対話を通じて「鬼将校を憎む感情が消えた」という経験をします。その後、彼は長野五輪が行われた1998年には聖火ランナーとして、直江津の町を走り、収容所のあったつらい記憶の場所で沿道から日本市民の声援を受け、日米和解のメッセンジャーの役割を果たしました。それから、アメリカではその体験を教会で語り、大衆伝道、マスメディアでも「人を許す」ことによってこんなに平安になれるというメッセージを送り続けました。

私は、この映画を見たいと思ったのは、反日映画であるという前評判があつて、収容所に送られた人の生活を知りたかったからです。実は、私が行っている教会の初代牧師は、戦争が終わった 1945 年 9 月 9 日に「死体引き取るか」という電報が刑務所から届きました。敵国アメリカの宗教を説く牧師ということで、実刑判決を受け、刑務所に入っていました。敗戦となつて、同じような目にあつた牧師たちがすでに家に帰された話がチラホラ聞こえる中でした。その遺体には、頭部に大きなキズがくつきりと数か所残され、他の体にも拷問の疑いを抱いてもおかしくない傷がありました。ですから、収容所とか、刑務所などではどのようなことが行われていたのかを知りたいと思わされたからであります。

ゼンペリーニになされたことは、反日ではなく、戦争は、人の心の中に潜む敵をいじめ、苦しめるといふ非道なことが起きているということをお忘れではありません。

「わたした。恐れることはない」という言葉の背後に何があつたでしょうか。弟子たちの乗っていた舟は、逆風に悩まされています。この「逆風」という「エナンティオス」というギリシャ語は「拷問にかけられる」という意味があります。イエスが、弟子たちを強いて舟に乗せられました。しかし、この舟は拷問であつたのです。

イエスのご命令に従っていたのにこんな向かい風に遭うなんて、と弟子達はぶつぶつ呟いたかも知れません。こぎあぐねていました。

また、弟子達は「幽霊だと思い、大声で叫んだ」(マルコ 6:48)とあります。恐怖の叫びです。幽霊と訳されているギリシャ語は「ファンタスマ」という言葉で、英語のファンタジー(幻想)の語源です。幻想、幻覚に襲われたのです。わたくしたちも、きちんと真理を求めないで、主を見ないで、自分の考えにしがみついて、自分なりに勝手なことを想像してはいませんか。「ファンタスマ」に出会った時、主の言葉は「安心しなさい。わたした。恐れることはない」(マルコ 6:50)でありました。

「安心しなさい」という言葉は「サルセオー」という元気を出すという意味です。快活さ、勇気を取り戻しなさい、と主は励ましてくださいます。逆風と思われる中にあつても、力を与えてください。大声を挙げたくなり、恐怖に陥り、どうしたら良いかわからない時に、「安心しなさい」と声をかけ、「わたした、恐れることはない」とおっしゃってくださる神様に感謝しましょう。私達も主の御言葉によって、元気にされましょう。

2016 年 5 月 31 日 聖学院大学 全学礼拝